



RRCJ

The Resilience Research Council of Japan

一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

2016.10.13 (第21号)

【目次】

1. 「第22回 定例会」ダイジェスト報告
(2016年9月14日開催)

2. 次回「第23回定例会」開催のご案内

11月17日(木) 13:00~16:45

於 ; 日比谷図書文化館

3. 会員募集のご案内



(ワークショップでのチーム発表の様子)

【1. 第22回 定例会 ; ダイジェスト報告】

日時 : 2016年9月14日(水) 13:00~16:40

場所 : 日比谷図書文化館

参加者数 : 23名 (講演者を含む)

このメールマガジンのバックナンバーは以下からご覧いただけます。

https://resiliencej.wordpress.com/mtg_history/

<定例会内容>

(1) 13:00~13:20 『避難所運営とBCP』

石井洋之 氏 (中小企業診断士・静岡大学客員教授)

□ 当協会会長林春男の「会長講話」を予定しておりましたが、公用により出席できない事となりましたので急遽石井様に代役をお願いしました。最近石井様がBCPの中で強調されている「避難所運営訓練の重要性」についてお話いただきました。

[講演者抄録]

● 東日本大震災では、2016年3月31日現在、震災による死者21,858名のうち、震災関連死による死者は3,470人、15.6%にのぼると報道されている。

熊本地震では、2016年9月6日付の新聞記事によれば、熊本地震関連死は31人となったという(9月21日付け報道では、102人中52人、51.0%が震災関連死と認定されている)。

災害関連死とは、震災による直接死以外の犠牲であり、避難途中または避難後に死亡した場合も、因果関係が認められれば関連死として扱われる。車中泊の避難生活で発生するエコノミー症候群がその事例として有名である。



- 正確な数字は、今持ち合わせていないが、震災関連死のうちその半数は避難所での死亡であるといわれる。長引く過酷な避難所生活によって犠牲になるのは、高齢者、病弱者等の災害弱者である。さらに将来を悲観した自殺者も含まれている。せっかく震災の災禍を逃れたのに、その後の過酷な避難所生活により体調を悪化させて亡くなる災害弱者がいかに多いかということを目を注ぐべきである。
- 静岡県版BCPモデルプランでは、その基本方針に「従業員及びその家族の命を守る」と謳われている。大企業に比べ企業の中での役割が大きい中小企業の従業員にとって、家族の震災関連死による犠牲は、従事する企業の復旧活動に大きな支障となる。それゆえ地域経済を支える中小企業のBCPにとって、従業員だけでなくその家族の安全を図ることが重要である。具体的には、地域の自治会等と一緒に頑張って避難所生活の質的向上に貢献する活動が必要であると私は主張している。

避難所HUG



- 幸い、静岡では「避難所運営ゲーム (HUG)」が平成 19 年に静岡県職員によって考案されているので、避難所運営をゲームで体験することによってその難しさに気付いてもらう訓練ができる。静岡県では、原則、毎月第一土曜日 13:00~16:00 まで静岡県地震防災センターでHUG体験会を実施している (事前申し込み必要)。「避難所運営ゲーム」の内容は、静岡県地震防災センターHP上に掲載されている。

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/index.html>

- ツールとなるゲームセットは、6,700 円で購入する必要がある。筆者の所有しているセットを使い、次回、1月の例会で、このゲームを体験していただく予定である。

(2) 13:20~14:00 『被災時のメンタルヘルスケア』

深谷純子 氏 (深谷レジリエンス研究所)
(レジ協 ヒューマンレジリエンス部会)

[講演者抄録]

- 「レジリエンス」というと、堅牢なインフラやBCPをイメージされる場合が多いが、BCP担当者がレジリエンスであることも必要だということ、2つのBCP訓練事例を交えて紹介した。



- 過去に参加した、4日間(24時間体制)想定の日中と中国の担当者で行った「BCP実働訓練」では、担当者のレジリエンスに関する2つの課題が確認できた。

1点目は、マニュアルやリーダーに頼らない柔軟で強い遂行力が必要だということ。被災時に対して完全なマニュアルは作れないということを前提に、柔軟に考えて行動できるメンタリティを高めておく必要があること。

2点目は、リーダー自身が役割を抱え込まないこと。つまり ①リーダー不在でも動ける機動力を考慮したメンバー育成(マルチタスキング)をすること ②リーダー自身が権限をメンバーに委譲する勇気をもつこと ③自分が休むことへの抵抗感を払しょくする等で、強すぎる責任感や役割兼任により自身がダウンすることがないように注意を促すことの必要性である。

- さらに「机上訓練」を通じてわかった、BCP担当者の家族へのケアの重要性を紹介した。机上訓練の

主な目的は、BCP に書かれているワークフローや役割の理解度を確認することだが、そこで家族に関する以下のような状況付与を行ったところ、思わぬ反応があった。

「10代の子供が行方不明で携帯に出ない」

「家族がひどいケガをして病院につれていきたい」

ある参加者は頭が真っ白になり、その後の訓練に集中できなかった。また別の参加者は「BCP に書いてない質問をされ、意味が分からない」という反応だった。

- このことから、家族のケアを BCP と一緒に検討する必要性および、災害に対して BCP に書かれていない想定外のことまで想像力を広げる必要があることを強く認識させられた。

被災時の心理・感情面に注目した訓練として、次のセッションである「サイコロジカル・ファーストエイドワークショップ」も参考にしたい。

(3) 14:10~16:40 『サイコロジカル・ファーストエイドワークショップ』

サニー神谷 氏 (一般社団法人 日本防災教育訓練センター 代表)



□ 当日はワークショップを主体に進行しました。サイコロジカル・ファーストエイド (心理的応急処置) の内容説明については今月発行の「レジリエンスビュー 第16号 (協会HPに掲載済) に寄稿していただいておりますのでそちらをご覧ください、ここでは省略させていただきます。(あわせてサニー神谷氏のプロフィールもビューをご覧ください。)

□ 色々な災害時の想定訓練はあり、これまでもいくつかは参加させていただいた事がありますが、今回の「サイコロジカル・ファーストエイドワークショップ」は今までにない新たな切り口からのアプローチのものだと思います。

□ 一般的な災害想定訓練は、ある災害が発生したことに対して、事前の準備態勢、備え (大概不備だけが前提だが) の情報が与えられ、そこに発災時からの時間経過とともに各種情報 (これも不十分なもの) が与えられ、それらに対して、本部として、地方拠点として、担当者としてどう対応・対処していくかというものが多くあると考えるが、今回のワークはその名があらわす通り「人」に焦点を絞ったもので、その手法も含めてある種新鮮でした。

□ 人の救助を任務とするレスキュー隊員は、想像力を働かせることが特に重要であるということを確認しました。要するに救助に向かう時、事前情報からあらゆることを想定し対処方法を考えながら現場に向かうそうです。これは「想定外を無くす」ということに繋がると言えます。この訓練は想定外を少なくする (無くす) という意味でのイメージトレーニングとも言えると考えました。要救助者に対し置かれた現環境を踏まえた上で、本人の状況 (事情、心) を推察し適切な対処を行うためのイメージトレーニングとも言えると思います。

□ 短い時間のワークでしたが、手法としてポイントと思った点をお伝えいたします。

- ① 一般的な訓練は先に述べたように「状況変化が次々に発生してきてそれに対処していく形」ですが、今回ワークはまず状況があ



るわけです。例えば「地震の後、倒壊した家の前で足に

ケガをした子犬を抱いた女の子が座り込んでいる」と言うようなケースが与えられます。そして、その時間も示されます。夏の11時とか冬の夕方4時過ぎとか（季節、時間によって対処方法が変わることになります）。

② そしてこのケースへの対応方法をチームで考えることになります。

- ・女の子の家族はどんな状況になっていると思うか？
- ・どのように近づき、何を話かけるか？
- ・どのように判断し、何をするか？
- ・どのようなサポートが必要だと考えるか？

チームではそれぞれに対して色々な意見が出ますが、それぞれのテーマごとにキーワードでまとめるという作業をします。これもそれぞれの段階で何がもっとも重要であるかという気づきに繋がると思われます。



(チームまとめ例)

□ こうしたワークを繰り返すことで想像力が豊かになり、想定外を少なくすることに繋がるのだろうと考えます。

通常と逆のアプローチ、すなわち「現状（事実）」まずありきで、それに対して「その前（少し過去）」にどういう事があって、「これから（少し未来）」どうなるかを見通して要救助者に最善の対処を検討しあうという訓練であり、参加者にとってそれぞれに学ぶところの多いワークショップだったと思われま

す。

(以上 広報担当)

□ 以下神谷さまからの追加情報をお知らせいたします。

下記の関連リンクを参考にさせていただくとさらに現実的な動きがわかるかもしれません、との事です。

■↓「心の知能」と会話する サイコロジカルファーストエイド

～すべてはひとつの感情から始まる～

http://irescue.jp/PDF/PFA_WorkShop09142016.pdf

■↓災害支援内容リスト：被災地の実情に置き換えて使う

http://irescue.jp/PDF/saigaishien_methods_list.pdf

■↓サイコロジカル・ファーストエイド 実施の手引き 第2版

http://www.j-hits.org/psychological/pdf/pfa_complete.pdf#zoom=100

※特に65ページ、66ページの内容が重要。

この内容はすべてのBCP対策において、具体的に社員の生活を守るために災害前から、社員の生活事情に応じた申請書を書けるところまで準備させておき、ファイルしておくことで、結果的に会社の復旧を早める対策として、有効だと思います。

知っているだけでなく、具体的に準備しておかないと申請後、支援金などを受けるたびに数ヶ月かかることがありますので、不利になります。

市町村の災害対策課や総務課職員向けの研修時に使っていますが、申請を受ける側も滅多にあることではないため、申請受付手順など内容を知らない職員が多く、また、広域応援先での自治体でサポートする際、大きな課題になっております。

- ↓熊本地震被災者応援ブック - 首相官邸
http://www.kantei.go.jp/jp/headline/pdf/kumamoto_earthquake/book.pdf
- ↓被災者支援に関する 各種制度の概要 (東日本大震災編)
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagyousei/pdf/kakusyuseido.pdf>
- ↓住宅再建支援事業 (二重ローン対策) について
<http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/2juuro-n-hojo.html>

災害が起こるたびに、また、災害種別や規模によって補償額や支払額、申請に必要な証明書なども変わってくると思いますが、大枠はここに記載された内容 {カテゴリー} になると思います。内容が重複しているように見えますが、それぞれの災害事情に応じて異なるようです。

16:40 閉会

【3. 次回『第23回定例会』開催のご案内】

日 時：2016年 11月17日(木) 13:00 - 16:50

場 所：千代田区立 日比谷図書文化館 小ホール 千代田区日比谷公園1番4号
(大代表) 03-3502-3340

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>

参加費：会員；無料

一般；3,000円 会費は当日、会場受付でお支払下さい。
(お釣りが無い様をお願いします。)

事前登録のお願い：会員の方も一般の方も、参加する際には事前登録をお願い致しております。
以下のアドレスにお申込み下さい。領収書が必要な方はその旨お知らせください。当日受付でお渡し致します。

申込登録は ⇒ http://www.kokuchpro.com/event/rrcj_201611/

<プログラム>

12:30 - 13:00 — 受付 —

13:00 - 13:30 『会長講話』 林 春男 (国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長)

13:30 - 13:35 『主旨説明』 増田幸宏 (芝浦工業大学)

14:35 - 14:25 『安全・安心と危機管理のこれから・「危機と平時」併進時代の市民安全のかたち』
石附 弘 (日本市民安全学会 会長)

14:25 - 14:35 — 休憩 —

14:35 - 15:15 『災害時のマンションでの生活継続』 村田明子 (清水建設)

15:15 - 15:55 『マンションでの先導的な取り組み事例』
飯田太郎、濱口加津子 (一般社団法人 マンションライフ支援協会)

15:55 - 16:05 — 休憩 —

16:05 - 16:45 『震災時のトイレに関する調査研究事例』 木村 洋 (長谷工コーポレーション)

16:45 閉会

※ プログラムは今後予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

【3. 会員募集のお知らせ】

◎ 当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

(参考) 個人会員の年会費は 10,000 円 (消費税込) です。年 6 回程度開催予定の定例会・訓練会等の参加費 (1 回 3,000 円×6 回) が無料となる他、各研究会 (チーム) にも自由に参加することができます。

法人会員 (100,000 円+消費税) もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

<https://resiliencej.wordpress.com/aboutus/application/>

=====

※レジリエンス協会のメールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 当協会のメールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

「info@resilience-japan.org」

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>

=====